



TITLE:

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 142

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 142. 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 1964, 142: 11-14

ISSUE DATE:

1964-07-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186896>

RIGHT:

水族館月報

No. 142

1964年6月

6月の入場者数

一 般		団 体		有 料 合 計	特 別 観 覧
大 人	小 人	大 人	小 人		
33,715	456	15,292	121	49,584	475

前年度比	1963	1964	増 減
入場者数	47,531	49,584	+ 2,053

水族館記事

- ◎ 3日 江川のエビ漕ぎ網漁師より、ニシキウニ、*Salmaciella dussumieri* (Agassiz) (殻径4.5cm) 1個体が入槽。この和名に似ず、殻と棘は緑色をおびた褐色で、一見サンショウウニに似ている。
- ◎ 11日 H水槽のインダイ、インガキダイは、他魚の尾鰭を噛み切る習癖が強くなり、同槽のハマチの被害が大きくなつたので、全個体(25尾)をF水槽へ移収した。インダイ類は水槽で飼育すると、しばしばこのような習性をあらわすが、数個体以下の時は、ほとんどそれを示さなかつた。しかし、4月以降、収容個体数が増したのと、今月はじめに、同槽へかなり弱つたブリを収容したさい、群をなして攻撃したことがもとになつて、元気なハマチもおそようになつたらしい。噛み切られたハマチの尾鰭は、その後除々に再生している。
- ◎ 17日 北浜沖暗礁でタカベ幼魚(7~8cm) 12個体を潜水採集。イボダイ亜目の魚は、飼育が難しく、これまで長く飼つた記録がない。今回は採集時の取扱いに注意し、一部はミジンコで餌付けに成功したが、その後体表の「すれ」が悪化し、8日後に全滅した。
- ◎ 18日 冷却器内アルブラック管の亀裂のために故障していたNo1冷凍機の修理完了(齊藤商店係員2名)。No2機より本機に冷却運転をきりかえた。
- ◎ 21日 No25水槽(玄関正面の俯観水槽)は、給水事情が悪いので閉鎖して

いたが、その上部に大型卓上水槽（150×40×50cm，10mm厚，透明アクリル樹脂板製）をおき，これにクラゲ類と砂地の動物を展示することにした。給水は南側水槽列の給水主管を延長した開放式，排水はNo.25水槽を利用。今後この槽をNo.1水槽と呼ぶ（これまで，No.1は欠番になつていたので，疑問を表明する観客がかなりあつた）。

- ◎ 27日 No.30水槽のヒラタエイが幼魚（体長6cm）3個体を産出したが，やゝ早産だつたらしく，30日までに全魚死亡。

◎ 6月の動物入手概況

1. 採集作業

日 時	採集場所	方 法	人員	主な目的動物
7日午後	円 月 島	素もぐり	1	小型磯魚
10日 "	南浜防波堤附近	磯 採 集	2	ケヤリムシ
12日 "	"	" . 素もぐり	4	ダイド・プールの魚
16日 "	北浜沖岩礁	素もぐり	1	ハコフグ
17日 "	"	SCUBA 潜水	3	小型磯魚
24日早朝	塔 島 東	一 本 釣	3	中型磯魚
29日午後	円 月 島	素もぐり	2	ウミシダ類
30日 "	塔 島 東	"	1	ヤ ギ 類

上記のほかに地引網参加採集3回。

主な採集動物名（☆印は1962年4月1日以降はじめての入槽）

無脊椎動物：ハナガサクラゲ，トゲナシヤギ，☆オヨギイソギンチャク，ウミケムシ，ケヤリムシ，イボシヨウジンガニ，☆シラヒメウミウシ，☆メクラガイ，☆ダルマクリムシ，☆オミナエシダカラ，ノコギリウニ。

魚 類：ヒラタエイ，タカベ，キンギョハナダイ，オキゴンベイ，クモギンボ，ハナハゼ，イソスズメダイ，☆ダルマヌメリ，ホンソメワケベラ，イトヒキベラ，タケノコメバル，ウスバハギ，ハナオコゼ。

2. 購 入

前月同様に，雑賀崎一本釣漁師と江川エビ漕ぎ網漁師よりの入槽が多かつた。

主な購入動物名

無脊椎動物：クルマエビ，フトミゾエビ，☆ヘイケガニ，メガネカラツバ，☆カラツバモドキ，☆ジユウイチトゲコブシ，ノコギリガザミ，☆ウロコオウギガニ，

ヤツシロガイ，トキワガイ，マダコ，☆ニシキウニ。

魚 類：☆ウチワザメ，ツバクロエイ，ヘコアユ，アカマツカサ，メアジ，☆
 ホウセキキントキ，☆テンジクダイ，☆クロイシモチ，サクラダイ，イトヒキ
 ハゼ，タコベラ，☆ウミズキチヨウチヨウウオ，☆クマドリ，ヒメオコゼ。

◎ 飼 育 概 況

例年6月は，もつとも白点病に悩まされる月であるが，本年はすでに，5月中に
 多発し，その処置を続けていたので，被害は予想外に少なかった。白点病のほかに
 T-4水槽のスズメダイ類にウーディニウム症が発生。これは，新たに購入したコ
 バルトスズメより感染したらしく，硫酸銅浴で治療したが，熱帯魚商より入る魚類
 は，寄生虫の有無によく注意する必要がある。また，エビ漕ぎ網による採集魚類は，
 当然予期されることながら，体表の「すれ」が多く，生残る率は極めて悪いが，時
 に珍種が入る期待もある。

6月30日現在飼育中の動物は，総計485種4144個体以上で，その内訳は
 次の通り。このうち，観覧水槽に飼育・展示中の動物は，456種3760個体以
 上。

カイメン類	3種	16個体	ゴカイ類	7種	23個体	イカ類	3種	89個体
ヒドロ虫類	3"	15 "	カブトガニ類	1"	1 "	タコ類	1"	3 "
ハチクラゲ類	一"	一 "	フジツボ類	5"	60 "	ウミシダ類	3"	21 "
ウミトサカ類	7"	17 "	カメノデ類			ヒトデ類	10"	221 "
ヤギ類	6"	60 "	エビ類	14"	199 "	クモヒトデ類	7"	20 "
ウミエラ類	1"	4 "	シヤコ類	3"	17 "	ウニ類	14"	143 "
イソギン チャク類	7"	54 "	ヤドカリ類	10"	95 "	ナマコ類	6"	35 "
イシサンゴ類	10"	46 "	カニ類	44"	275 "	ホヤ類	3"	3 "
ツノサンゴ類	1"	1 "	アメフラシ類	9"	20 "	軟骨魚類	10"	65 "
ハナギン チャク類	1"	12 "	二枚貝類	23"	233 "	硬骨魚類	230"	1481 "
ホウキムシ類	一"	一 "	巻貝類	38"	896 "	カメ類	3"	15 "
			ヒザラガイ類	2"	4 "			

資 料

6月の気象（午前9時観測）

才1水槽室（水温・比重はNo.24水槽）

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数：16	6	6	4
室温（℃）	$\frac{21.2 \sim 23.0}{22.1}$	$\frac{20.8 \sim 25.0}{22.9}$	$\frac{22.5 \sim 23.8}{23.1}$
水温（℃）	$\frac{22.30 \sim 23.04}{22.69}$	$\frac{21.64 \sim 24.00}{22.92}$	$\frac{22.96 \sim 23.84}{23.38}$
比重（15℃）	$\frac{24.93 \sim 25.62}{25.33}$	$\frac{25.44 \sim 25.75}{25.58}$	$\frac{22.16 \sim 25.29}{24.06}$

才3水槽室（水温）

H水槽（℃）	$\frac{22.2 \sim 23.0}{22.7}$	$\frac{22.4 \sim 24.2}{22.9}$	$\frac{23.2 \sim 24.0}{23.5}$
T-8水槽（℃）	$\frac{22.8 \sim 23.4}{23.0}$	$\frac{22.0 \sim 24.6}{23.2}$	$\frac{23.4 \sim 24.0}{23.8}$

海水取入口

水温（℃）	$\frac{22.88 \sim 23.00}{23.15}$	$\frac{21.26 \sim 24.78}{23.36}$	$\frac{22.40 \sim 24.00}{23.54}$
比重（15℃）	$\frac{25.36 \sim 25.75}{25.54}$	$\frac{25.61 \sim 25.86}{25.69}$	$\frac{19.17 \sim 25.69}{24.21}$

昭和39年7月15日 (No. 142)

編集兼発行者 市 川 衛

発 行 所 京都大学瀬戸臨海実験所

和歌山県西牟婁郡白浜町

電話 (白浜) 2047.3515